

東東京 岩倉・磯口洋成さん



磯口洋成さん

# 高校野球 育成功労賞に2氏

西東京 早実・鷲頭正和さん



鷲頭正和さん

高校野球の発展に貢献した指導者に日本高校野球連盟と朝日新聞社が贈る育成功労賞に、今年東東京から岩倉の磯口洋成監督(63)、西東京から早稲田実業で責任教師を務めた鷲頭正和さん(63)が選ばれた。いずれもチームの危機を乗り越えた野球人。16日の東・西東京大会組み合わせ抽選会で表彰される。

9/12 朝日

## 楽しさ伝える強い思い

岩倉の監督に就いたのは1990年。部員の暴力問題で9カ月間の対外試合禁止処分を受けた直後だった。部員の規律の乱れをただすため、まず寮の掃除やあいさつを徹底させた。

「やんちゃだったけど、みんな根底には野球が好きという気持ちがあった」

走り込みと基礎練習をひたすら続けた。チームはみるみる強くな

り、97年の東東京大会決勝で早実を破った。甲子園は初戦敗退。選手と一緒に涙を流した。

北九州市の常磐高のエースから亜細亜大に入り、東都リーグ優勝に貢献。社会人の日産自動車でも市対抗野球に3回出場した。

輝かしい経歴はここまでだった。現役引退後、コーチとしてとどまった日産ではチームの成績がふるわず、わずか3年で解任され

た。「悔しいというより、ただ悲しかった」

2年間の野球好きのサラリーマン生活。「野球してた時の方がはつらつとしてたわ」。妻の幸子さんの言葉に背中を押された。高校野球の指導者になろうと通信教育で教員免許を取り、30歳を過ぎて高校教師に転身した。

野球を奪われた悲しみを知っているからこそ、野球の楽しさを伝えたい思いは人一倍強い。定年まであと2年。やり残したことがある。「甲子園はやっぱり勝って校歌を聞く場所ですよ」(後藤泰太)

早実の責任教師だった1992年春、当時の和田明監督がくも膜下出血のため急逝した。甲子園に春夏計11回も出場し、80年に荒木大輔投手を擁して準優勝を果たした54歳の名将。重責を担う人材は

なかなか見つからず、正監督不在のまま夏の大会を迎えた。

チーム編成さえままならず、一時は出場さえ危ぶまれた。OBの大学生らに声をかけると、代理

の監督やコーチを引き受けてくれた。初戦で負けたが、「みんな一生懸命やってくれた。私は恵まれていたんです」。今も感謝の気持ちをおぼれない。

監督に怒られた選手が落ち込まないように世間話で和ませ、補欠部員も練習に熱心に参加させようと尻をたたいた。野球の経験はないが、そんな細かな配慮と支援から、多くの教え子に慕われた。

## 「教え子の存在が誇り」

責任教師を務めたのは95年までの10年間。甲子園は88年の選抜で初戦敗退した1回だけだったが、退任後も後任を支え、2006年夏の全国制覇を見届けた。「伝統を引き継いで良かった」と喜ぶ。

昨年、食道がんの手術を受け、定年前に退職した。今は療養を続けながら都高野連理事を務めている。「部のOBたちに支えられてやってこられた。功労賞は、それを代表してもらっただけ。教え子たちの存在が私の誇りなんです」

(高浜行人)